

令和6年度 学校評価計画表		五條市立五條中学校							
学校教育目標		夢・志をもち、社会を「生き抜く力」を育む ～ 自立・自律・自学 ～					総合評価		
運 営 方 針		・小中間及び家庭との連携を軸とした学習活動の工夫から基礎・基本の定着を図ると共に、主体的・対話的で深い学びにつながる授業の工夫をすすめる。 ・自尊感情をはじめ自己有用感および自己効力感の向上により非認知能力を伸ばし、一人一人が「来てよかった、明日も行こう、行きたい」と言える学校教育の推進に努める。 ・運動を通した体力の向上を図ると共に、健康で安全な生活習慣を確立し、心身共に、たくましい生徒の育成に努める。 ・あいさつ運動をはじめ、防災活動やボランティア活動などPTA及び自治会等地域組織との協働・参画を図る。 ・教職員の資質・能力の向上を図り、働き方改革を推進する。					B		
令和5年度の成果と課題		本年度の重点目標		具 体 的 目 標					
○基礎学力定着に向け教員はわかりやすい授業への取り組みを推進している。確認方法として、生徒アンケートで「めあて」「ふり返り」の定着度についての項目を設ける。 ○生徒会を中心に、生徒達が積極的に行事や委員会活動に参加できている。また、個に寄り添う生徒指導により、生徒達のほとんどが落ち着いた学校生活を送ることが出来ている。 ○●中部学園として合同研修や研究授業に取り組み、小中一貫教育を推進することができた。しかし、取り組む中で改善点も挙げられているので、コーディネーターを中心により良い形となるように検討を進める。 ●家庭学習への取組が不十分であるため、今年度も小中の共通の課題として取り組みを進める。	◎確かな学力の育成		○基礎学力の定着を目指した授業の工夫						
			○家庭学習の習慣化						
			○小中一貫教育による系統性及び連続性を持たせた学習活動の工夫						
	◎豊かな心の育成		○自尊感情をはじめ自己有用感および自己効力感の育成						
			○行事や生徒会活動を通じた生徒の自主性及び主体性の涵養						
	◎活力ある心身の育成		○運動を通した体力の向上						
			○健康・安全教育の充実						
	◎特色ある学校づくり		○小中で一貫した地域と連携したふるさと学習の取り組みの構築						
			○児童・生徒会活動等の合同実施を通じた児童・生徒の育ち						
			○コミュニティスクールの推進						
評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標		自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策		
◎ 確かな学力の育成	○基礎学力の定着を目指した授業の工夫。	・非認知能力の育成を目指す授業の構築 ・学習場面での「めあて」「振り返り」を大切にし、わかりやすい授業の実施(8割以上) ・地域未来塾の開設による学習機会の確保(月平均2回) ・ICTを活用した分かる授業の実施 ・朝読書・図書館の活用による読書習慣の定着(貸出目標5冊)		B	B	・中部学園合同研修会で「非認知能力の育成について」を話し合い、教員の資質高めるとともに、指導方法についても工夫をすすめている。 ・わかりやすい授業については、アンケートの「そう思う」「ほぼそう思う」で生徒9割、保護者8割の回答を得ることができている。 ・月平均2回の学習機会の確保については達成できた。 ・図書館での貸出目標は下回っているが、朝読書の時間に静かに本を読む生徒は増加している。	・非認知能力を高める取り組みについて、研修等で指導方法を学び、積極的に指導する。 ・朝読書の時間に落ち着いて本を読む生徒は増えてきたので、図書館での貸出冊数が増えるよう生徒に促していく。 ・家庭学習をほとんどしない生徒が2割を超えることから、すららやドリルパーク等を活用し、家庭学習をする機会を増やす。また、保護者にも協力を依頼していく。	・小中一貫教育の充実を図り、年3回の合同研修をしっかりと取り込んでいる。 ・授業内容が理解出来ているのかを確認するためにも「めあて」と「振り返り」を継続して行ってください。	
	○家庭学習の習慣化	・すららネットの活用による家庭学習時間の習慣化(1・2年は2時間、3年は3時間、目標時間の8割)		B		すららネットの活用は昨年度よりは進んでいるが、目標時間の5割しか達成できなかった。		・「すらら」や「ドリルパーク」等で、生徒のタブレットを利用した学びが推進されると良いと思う。	
	○小中一貫教育による系統性及び連続性を持たせた学習活動の工夫。	・小中合同による授業研究等研修の実施(学期1回) ・小中合同研究部会の取組の実施(学期1回) ・教員の相互派遣による児童生徒への授業の実施(年1～2回)		A		・中部学園の小中一貫コーディネーターの連携により、合同研修や研究部会については、今年度も目標を達成することができた。 ・授業の相互派遣については実施できなかった。教員の相互派遣の方法を模索中。	・合同研修で話し合いをする機会を多く設定したことで、教員間の意見交流が進みつつある。今後も継続した機会の設定が必要である。	・出来るだけ図書館の活用を促して欲しい。	
◎ 豊かな心の育成	○自尊感情をはじめ自己有用感および自己効力感の育成。	・人権教育・道徳教育の充実に向けた研修の実施(年1回) ・生徒一人ひとりに寄り添う生徒指導の充実		A	A	・地域諸機関と連携し、講演会等行事を実施した。 ・今年度もLGBTQIについて講師を招き、1年生に対し講演を行った。 ・授業以外にも部活動や学校行事など学校生活全般で機会を捉え、生徒一人ひとりの心情に寄り添うよう努めている。	・人権学習で多様性を学ぶ機会を確保するために講演会を継続して行う。 ・不登校傾向生徒への対応として、子どもサポートセンターやスクールカウンセラー、関係諸機関と連絡連携をより一層充実させる。また、保護者にも協力依頼をお願いする。	・学校行事へ積極的に参加し、自主的に取り組んでいる生徒が多い。	
	○行事や生徒会活動を通じた生徒の自主性及び主体性の涵養。	・インクルーシブ教育の推進 ・個に応じた特別支援教育の充実(月1回) ・スクールカウンセラー等の専門家と連携した生徒指導の推進(学期1回)		A		・TTや取り出し授業等を行い、生徒の特性や進路に応じた学習指導を実施している。 ・生徒指導については、報告・連絡・相談を徹底し、生徒の状況把握に努めている。また、子どもサポートセンターやスクールカウンセラー、関係諸機関と連携し、ケース会議を行い、生徒や保護者への支援を行っている。		・集団生活が苦手な子や虐待、ヤングケアラー等も増えてきているので、家庭と連携しながら先生方には引き続き見守りをお願いします。	
		・体育大会や合唱コンクール等行事への取り組みを通した学級でのなま作りの推進。(楽しみにしている学校行事がある8割以上) ・生徒会中央委員会が主体となって実施する行事及び委員会活動の企画運営の充実(学期1回) ・生徒会各種委員会活動の活性化(月1回)		A		A	生徒の8割が「毎日の学校生活が楽しく充実している」に回答している。保護者についても8割が肯定的な回答であった。 生徒の8割が「委員会・係活動に積極的に取り組んでいる」に回答している。生徒会も活発に活動し、委員会活動についても生徒達が積極的に行動し、それぞれの役割を果たすことができた。	・行事については、精選や工夫をしながらより良い新しい形にするべく検討を続ける。 ・生徒会と各種専門委員会については、更に自主的な活動が出来るよう指導を進める。	
◎ 活力ある心身の育成	○運動を通した体力の向上	・部活動を通した体力づくりの推進(加入率8割以上) ・拠点校方式による部活動運営の整備		B	B	・部活動の地域移行のこともあり、加入率8割は達成できなかった。 ・拠点校方式による部活動運営については、学校間の距離や連絡体制の問題もあり、運営が難しいのが実情である。	部活動の地域移行に伴い、学校での活動についての体制を整える必要がある。	・部活動が今後どうなっていくのか心配。地域移行についてもはっきり分からない。 ・基本的生活習慣が確立できるよう継続して指導をお願いします。 ・情報モラルの徹底と、学習時間や睡眠時間確保のためにも、メディア利用についての授業や講演会を取り入れても良いかも。	
	○健康・安全教育の充実	・交通安全教室の開催や避難訓練の実施等、安全・防災教育の充実(学期1回) ・SNSの使い方、薬物乱用防止教室の実施(年1回) ・警察と連携し、自転車通学生徒への安全指導の徹底(年1回) ・小中合同防災教育の推進(年1回)		A		・今年度は、薬物乱用防止教室と思春期教室を開催し、自転車通学生への交通安全指導を行った。避難訓練については年2回行った。 ・自転車通学生徒への交通ルール等の安全指導の徹底を行う。 ・今年度も小中合同防災教育を実施した。	・生徒のメディアの利用時間を考慮し、ネットに潜む危険性等について警察と連携しながら学習する機会を設定する。 ・今年度も不審者対応の避難訓練及び教員の危機管理研修ができなかったの で、来年度は実施する。		
		・基本的生活習慣の定着(朝ご飯の摂取率8割以上) ・健康管理についての正しい理解と実践 ・食育の推進		B		・遅刻する生徒は少ないが、5時間睡眠を確保出来ない生徒が2割もいる。長時間のスマホ使用やゲームをすることが睡眠不足の一因となっていると思われる。成長期における睡眠の大切さを授業等で指導する必要がある。 ・今年度は食育講演会を行い、食について学ぶ機会を設けた。			
◎ 特色ある学校づくり	○小中で連携したふるさと学習の取り組みの構築。	・「ふるさと学習交流会」等児童生徒間の交流の機会の設定(年1回) ・「ふるさと学習」の系統化により、五條市の歴史や産業について知識や関心を深めた(8割以上)		A	A	・今年度も小中合同被災地見学を「ふるさと学習」の機会とし継続することができた。 ・「ラフティング体験」「柿の選果場体験」「鬼走り講演会」を開催し、8割以上の生徒が「知識や関心を深めた」と回答した。	・距離やスクールバスの関係上、中部学園の児童生徒を学校に集めることが容易ではないため、対面での交流の機会を増やすことが難しい。今後はIT機器を利用した交流会を行うなど工夫をしていく。	・挨拶運動を継続しているおかげで、校内や校外で出会った時に挨拶してくれる子がたくさんいて、大変うれしく思います。 ・ふるさと学習は、五條市の歴史を知り、ふるさとを誇りに思えるよう継続して学習してもらいたい。小中合同で発表する場があれば更に良くなると思う。 ・体験入学での体験授業は子ども達にとっても良い経験になったと思う。	
	○児童・生徒会活動等の合同実施を通じた児童・生徒の育ち。	・小中合同あいさつ運動等児童生徒会の交流の機会の充実(学期1回) ・新入学生徒への「体験入学」の実施等、交流授業の取組及び情報発信の実施(年1回)		A		A	・今年度も小中合同のあいさつ運動により、児童と生徒の交流機会を持つことができた。また、小学生がソーラン節の見学に来た時の感想文を中学校に掲示する等の交流を行うことができた。 ・今年度は、体験入学時に体育・理科・英語の体験授業を行った。生徒会からの中学校紹介も行い、小学生も興味津々で話を聞いていた。		・小中間の連携を進め、児童生徒が交流する中で互いに良い刺激を受ける機会となるような取組を検討する。
	○コミュニティスクールの推進	・五條中部学園としての学校運営協議会の運営(学期1回) ・パートナーシップ事業の活用による地域ボランティア活動の充実 ・PTA活動の活性化及び地域連携の推進		B		・五條中部学園としての学校運営協議会を学期に1回開催することができた。 ・地域ボランティアの活動の充実について、今年度も部活動の指導に協力を得ることができた。 ・今年度は、PTA活動についてはあまり活動ができなかった。来年度は、PTA活動が活発に行えるような取り組みを考える。	・ボランティアの人員確保に努める。 ・PTA活動については、これまでの活動を精選し、現状に合った活動形態へと整えていく。		
今年度の成果と次年度への課題		[成果] ・各校のコーディネーターが中心となって企画した合同研修や研究授業の取り組みを行い、小中一貫教育を推進することができた。 ・生徒会を中心に、生徒達が積極的に行事や委員会活動に参加できている。 ・個に寄り添う指導により、生徒達のほとんどが落ち着いた授業や学校生活を送ることが出来ている。			[課題] ・昨年度より学力は少し向上したが、より一層学力を向上させるためには家庭学習の習慣化を図らねばならない。 ・メディアリテラシーについての危険性を学習し、スマホ利用時間のコントロールについて、引き続き小中連携した取り組みを進める必要がある。 ・小中一貫の取組の中で、まだまだ改善すべき点があったので、各校のコーディネーターを中心に更により良い形となるよう検討を進める。				